

2-4 松本城クイズ松本城天守の仕組み (黒い天守・白亜の天守)

(解答・解説)

松本城管理事務所研究室

1. 豊臣秀吉は1583年(天正11)から3年かけて大坂城をつくりました。その秀吉の大坂城は口色で統一されていました。口にあてはまる色の番号は。.....②



秀吉の大坂城は、1583年(天正11)から3年かけて大坂城を築城しました。本丸には石垣上に5重6階の天守が聳えていました。その天守は黒で統一されていました。外壁は、黒漆を塗った下見板と黒漆喰の壁で覆われていました。飾り金具は黄金でつくられ、破風飾りには、金箔押飾瓦(きんぱくおしかざりがわら)が使用されていました。黒で統一されていたのは、この金箔を引き立たせるためです。

秀吉は配下の大名にも金瓦を許しました。全国各地の豊臣系大名の城跡から金瓦が発掘されています。秀吉は官位と金瓦の許可で大名を統制したといってもよいでしょう。

2. 豊臣大坂城は、飾り金具は黄金でつくられ、破風飾りには、□□□□□が使われました。□に入る五字は次の中からえらびましょう。.....③

飾り金具は黄金でつくられ、破風飾りには、金箔押飾瓦(きんぱくおしかざりがわら)が使用されていました。外部の木部には高価な黒漆を塗り、無数の金色の飾り金具や彫刻をちりばめ、瓦の先には金箔を押していた。他の大名では手が届かないほどの財力を見せ付けるものでした。最上階には鷲や虎の飾りがつき、絢爛豪華さでは信長の安土城天守と並ぶほどでした。

こんな大坂城でしたが、慶長20年(1615)の大坂夏の陣で焼失してしまいました。



金箔押飾瓦 (大阪歴史博物館蔵)

3. 松本城からも、下の写真のような瓦や五七桐紋軒丸瓦が出土しています。これらは、秀吉が家臣の有力武将に使用を許したものです。この瓦を何と呼ぶのでしょうか。.....①



松本城出土の金箔押瓦です。松本城からは金箔押瓦や五七桐紋軒丸瓦が出土しています。松本城以外からも、同じように金箔押瓦が出土している城があります。皆秀吉に従う大名がいた城です。松本城やこれらの城をつなぐと、家康がいる江戸を見張る形になります。

諏訪高島城・小諸城・上田城・甲府城・沼田城がそれにあたります。

4. 松本城のほかにも、おなじように金箔瓦が出土しています。これらの城をつなぐと、徳川家康がいる江戸を見張る形になります。次の図の4, 5, 6にあてはまる城と大名を下の番号の中から選びましょう。

4、 ウ (上田) 城 — オ (真田氏)

5、 イ (諏訪高島) 城 — キ (日根野氏)

6、 エ (甲府) 城 — ク (浅野氏)

両方正解で10点です。

7、松本城は、江戸にいる徳川家康を監視する要の城として築城され、豊臣秀吉が石川氏にそれを託したといえましょう。大坂城と同じように松本城の外壁は板の上に黒漆を塗り風雨を避けました。この板のことを何と呼ぶのでしょうか。・・・・・・・・・・④



天守は高層建築ゆえに風雨が激しくあたり、耐水性能も十分に考慮しなければなりません。塗籠(ぬりごめ)は風雨には万全でなく、10年から20年ぐらいいかもたないといわれています。それに対して下見板張は耐水性に優れています。50年くらいは長持ちするといわれています。

そのため、風雨の当たらない外壁上部は塗籠とし、中央から下部にかけての風雨の当たるところに下見板をはり、耐水性能を高めるために張られています。

8、徳川家康の江戸城は、壁に口漆喰、瓦には木に鉛を巻きつけ酸化すると口色に見える鉛瓦を、石垣には口色の花崗岩を使い、口く輝く城をつくりました。四つの口にあてはまる色は何でしょうか。・・・・・・・・・・③

江戸に幕府を開いた天下人の天下人徳川家康は、慶長12年(1607)に五層五重の天守を築造しました。木に鉛を巻きつけた鉛瓦と白亜総塗籠(はくあそうぬりごめ)の壁、石垣には白く輝く花崗岩を使い、まさに白亜の城を築造しました。富士山の姿と並びたつと言われました。大坂城天守よりははるかに巨大でした。政権交代を如実に示したものでした。この家康が創建した慶長度天守は純白の塗籠であったが、孫の三代将軍家光が再建した寛永度天守は、雨のかかる壁の下部は高級な銅板張にされました。



9、大坂夏の陣で焼失した大坂城天守は、徳川幕府の手で10年かけて再建されました。口色から口色にかわった大坂城を、人々は目の当たりにみましました。口に入る色は次のうちから選びなさい。・・・・・・・・・・②



左の図は、三代将軍徳川家光が再建した徳川大坂城復元立面図です。新式の層塔型天守で、各重に飾りの千鳥破風や唐破風を付けています。最上重は高価な銅瓦を使用して葺いています。壁面は漆喰で純白でした。黒から白にかわりました。一階の面積は豊臣大坂城のほぼ2倍の面積で、徳川幕府は豊臣氏を超えていることを誇示したものでした。

10、徳川大坂城は、豊臣大坂城をはるかに超え、約口倍の高さで、徳川氏の権威を見せ付けるものでした。口にあてはまる数字は・・・・・・・・・・①

右の図は豊臣時代天守と徳川時代天守を比較したものです。一階の面積は17間×15間で豊臣大坂城のほぼ2倍の広さでした。地盤を比べてみると、徳川大坂城は完全に豊臣大坂城の上に建ちます。その差は1,8m(1間)高い地盤でした。盛土をして、石垣を積みなおし、面積を広げてその上に築城しました。

図からも分かるように豊臣大坂城地盤から計測すると、徳川大坂城の高さは約60mになり、約1,5倍の高さにあたります。

